

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900337		
法人名	有限会社 大原ウェルフェア		
事業所名	グループホーム 大原苑		
所在地	〒838-0142 福岡県小郡市大板井391番地36	0942-73-1218	
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果確定日	平成27年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設11年目になり、入居者の中でも7~8年目の方が4名、その他の方も5.4.3年と長く大原苑で生活されています。職員の離職率は低く開設当時から働いている者も多くいます。そんな顔馴染みの家庭的な雰囲気の中で、毎日穏やかに安心して生活出来るように利用者へ寄り添う介護を心がけています。また毎日のレクリエーションと、下肢筋力が衰えないように廊下歩行や体操など一人一人に合ったリハビリ等もして頂いています。年間の行事の他に、気候が良い時は近隣の散歩、外出や外食等の機会も出来るだけしています。また、毎月の保育園との交流会は利用者にとって、楽しいな時間で心が癒される大切な時間だと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「大原苑」は、認知症高齢者が慣れ親しんだ地域の中で、家族や親しい人達と、最後までその人らしい人生が送れるように、11年前に開設したグループホームである。利便性の良い場所で、同一系列の保育所と併設し、園児達の元気で明るい様子を毎朝見ながら、利用者の楽しい一日が始まっている。利用者と職員は、地域の一員として、行事(ぜんざい会、お花見、ソーマン流し)や清掃活動に参加し、中学生の職場体験受け入れや、民生委員の見学会を受け入れ、地域との相互交流が確立している。また、かかりつけ医と協力医療機関を活用し、訪問看護師と介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず、安心して任せられる医療、介護体制が整っている。今後は、主治医と家族、職員が連携し、看取り介護を行うための支援体制を目指し、職員が一丸となって取り組む「グループホーム 大原苑」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年12月10日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11.12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みのある地域の中で「笑顔でゆっくりと常に優しい気持ちを持って介護にあたる」ことができるように、職員間で理念の共有が実践できるようにしている。	ホームが目指す介護サービスの在り方を示した理念を、玄関やリビングルームに掲示し、ホーム便りやパンフレットに掲載し周知を図っている。月に1度の職員会議の時に必ず理念を唱和し共有して、利用者一人ひとりを大切に、笑顔でゆっくりと、優しい気持ちを常に心に持って、介護の実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り地域の掃除などに参加している。夏祭りや餅つきなどの行事に参加して、地域との交流を深めている。	地域行事のぜんざい会やそうめん流し、お花見等に参加したり、地域の清掃活動には職員が交代で参加する等、地域の一員として交流している。また、中学生の職場体験受け入れや民生委員の見学会の開催等、広くホームを知ってもらうための取り組みをしている。近隣の保育園児との交流も盛んで、利用者の大きな喜びとなっている。	開設12年目を迎え、ホームの充実を図りながら、その知識や技術を活かした地域貢献に向けての取り組みを期待したい。(認知症カフェ、徘徊模擬訓練、介護相談事業等)
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方より、施設概要説明と見学などの要請があり行う予定である。入居相談はいつでも対応できる体制をとっている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度開催し、苑での取り組み、現状報告を行い、地域の方々、御家族、行政の方と話し合ったり、意見交換を行っている。	会議は、家族代表、地域代表、行政職員参加の下、2ヶ月毎に年6回開催している。ホームの状況や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受け、出された意見をサービスの向上に活かしている。	開設時から参加の委員が、役を降りてからも継続して参加し、情報提供等受けている。マンネリ化を防ぐために、近隣他事業所管理者との相互参加や民生委員、薬剤師、元家族等、幅広く会議への参加を求めていく事を期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より介護保険課担当職員とは、運営に対する報告・連絡・相談を行ってアドバイスをもらっている。	管理者は、行政窓口によく出向いて、解らない事を尋ね、入居状況、事故等の報告を行い、情報交換して連携を図っている。運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず入居者の見守りや付き添いをしていいる。止むを得ず身体拘束をする時は家族とよく話し合い同意を得ている。毎月身体拘束の見直し検討を行っている。	研修会の中で身体拘束について学ぶ機会を設け、言葉や薬の抑制を含めた身体拘束が、利用者にも与える影響を理解し、禁止行為の具体的な事例を検証し、職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全を考え、やむをえずベッド柵を使用する場合は、家族の承諾書を取り、月に1回の見直しを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	意識できない虐待の可能性もあるので、言葉使いや態度など十分に気をつけるよう気が付けば、その都度、職員間で話し合いをしている。また職員研修も行き、意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回の家族会で「司法書士」よりこれらの制度の説明があり学ぶ機会となっている。包括からの資料も玄関におき、入居相談で必要性があれば説明している。	家族会の中で司法書士による、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての説明を受け、家族の理解を深めている。現在、制度を活用している利用者はいないが、制度に関する資料、パンフレットを用意し、必要時には、内容についての説明や、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険改正時や加算変更時にはその都度、家族に納得のいく説明を行っている。日頃より話し易い雰囲気作りをしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見・要望は記録し全職員で検討している。第三者委員会もあり、外部の方からの意見も聞いている。	職員は、利用者との日頃の関わり中で、意見や要望を聴いている。年に1回行われる家族会で、無記名のアンケートを取ったり、家族面会時や行事(敬老会やクリスマス会)参加の時に、家族とのコミュニケーションに努め、意見や要望を聴いている。面会が難しい家族にも、状態に変化があったら電話で伝え、ホーム便りに写真を同封して送付する等、利用者の暮らしぶりを伝え、関係を築いている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議には代表者も参加し、職員からの意見を聞いている。管理者は日頃より職員からの相談を受けられるような体制を作っている。	夜勤者以外全員参加の下、月に1回職員会議を開催し、主に、利用者一人ひとりの状態、処遇について時間をかけて話し合い、情報の共有に努めている。職員同士、コミュニケーションが取れているので、意見はたくさん出され、自己評価についても全職員に割り当てて取り組んでいる。また、代表との個人面談も行われ、職員の意見、提案を直接聴き取る機会を設け、要望の具現化に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員からの意見や要望を聞き必要な物は改善をしている。職員一人ひとりの働きを知り、給与手当等に反映させるようにしている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	応募があれば、面接を行い適性を重視して採用している。休み希望も入れ、職員が生き生きと楽しく働ける環境を作っている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や、働く意欲等を参考にしている。職員の休憩時間の確保や勤務体制への配慮、希望休をほぼ100パーセント叶える等、管理者を中心に、働きやすい職場環境を目指している。ピアノや大正琴、創作、料理、レク等、職員が得意な事を活かしながら生き生きと働ける取り組みにより、離職は少なく職員は定着している。	職員が結婚、出産しても、ここで働きたいと願う職員が多いので、出産後も働き続ける事が出来る体制作りに取り組み、長いスパンで見た人材確保と、人材の育成に取り組む事を期待したい。
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修や資料を回覧し、職員が周知徹底するようにしている。職員の声掛け、言葉使い、態度が利用者に対する大きな影響を与えている事を常に意識している。	利用者の人権を守る介護の在り方について、研修会の中で学び、常に意識して取り組んでいる。利用者一人ひとりに合った声掛け、対応に努め、利用者が安心して暮らせるホームを目指している。また、職員会議時に理念を唱和し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議後に研修を行い、ケアの統一が出来るようにしている。外部研修も出来るだけ参加するようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他施設や病院の相談員やケアマネと情報交換をしている。勉強会や研修にも参加して施設内で回覧している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人情報や家族からの情報を聞いたり、本人とよく話し、また表情など見落とさないように十分に配慮する。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には必ずはなしをして、意見や要望は聞き入れ、次回の面会時には、その結果についても報告などとする。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を踏まえ、本人や家族が納得するサービスが出来るように行っている。一日でも早く施設に慣れてもらえるように職員とのコミュニケーションを中心に関係作りをしていくようしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性などを十分に理解し共同生活の一員として、会話を重視しながら関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな事でも、家族に相談しながら、意見を聞いたり、協力を得たりしながら本人を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	友人の面会や外出も家族の協力を得ながら続けてもらっている。	友人や知人の高齢化により、面会は少なくなってきたが、面会があれば、ゆっくり話せる場所やお茶を提供し、何時でも来て頂けるよう声掛けしている。アセスメントを活用し、馴染みの場所への外出等も、家族と協力して行い、利用者にとって大切な人や場所との関係が、入居によって途切れてしまわないように取り組んでいる。	
23		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者同士が支え合い、楽しく生活できる様支援している。ほとんど食堂で過ごされているので、顔馴染みになっている。		
24		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	入院先や他の施設に面会に行ったりしている。その後の経過で、再度入所を希望される家族もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者の希望や訴えに耳を傾け、思いや希望に添って支援を行っています。希望に添えない場合は本人が納得頂くまで話し合い検討し実践していく。	ベテラン職員が多く、利用者との信頼関係の中で、思いや意向を把握し、情報を共有して、一人ひとりの思いに沿ったケアの実践に取り組んでいる。また、意向表出の困難な利用者には、その表情や仕草、家族からの情報から本人の思いを汲み取り、判断している。	
26		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	利用者や家族からの情報を聞き生活歴を把握しよく理解する。なるべく今までに近い生活を出来る様に支援実践する。		
27		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	一人ひとりの一日の暮らしの流れに添って支援をする。職員間で情報伝達し申し送り等で心身状態などしっかりと把握する。		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	本人・家族の希望を聞き、職員間でも意見を出し合い共有し、介護計画を作成する。問題があればその都度変更・見直しもする。	家族の来訪時に意見、要望を聴き取り、職員会議の中で、カンファレンスやモニタリングを行い、職員間で利用者一人ひとりの状態について意見交換し、情報を共有している。担当者会議を経て、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成し、利用者の状態に変化があった場合は、その都度、介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や態度・会話など、記録や申し送り等で職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに役立てている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が安心して暮らしていける為に、利用者や家族の意見を聞きながら、その都度のニーズに対応できる様にしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との交流を定期的に行っている。区の行事への参加もされ地域の方達とも交流されている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に引き続き受診される方、訪問診療を希望されるなど家族や本人の希望に添うように支援しています。他科への受診時付き添いもしている。歯科訪問診療ある。	利用者や家族の希望を大切に、契約時に話し合い、馴染みのかかりつけ医と、月2回往診が出来る協力医療機関を選択して貰っている。現在、各ユニット1名がリハビリ目的でかかりつけ医を受診しているが、家族の同行をお願いし、医療情報の共有に努めている。往診医、看護師、介護職員との連携により、利用者が安心して適切な医療が受けられる体制を築いている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異変はすぐに看護師に相談報告しています。病院との連絡も密にして支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては、家族や病院関係と密に連絡をとり情報交換や相談に努めている。早期に退院できるように働きかけている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に今後重度化した場合の説明とサインを頂いています。食事がとれず立てないような状態になった時は主治医、家族と相談しながら入院いただく。看取りはまだ行っていません。	契約時に利用者や家族に対して、重度化に向けた方針の説明を行い、ホームで出来得る支援について理解を得ている。現在、看取りは行ってないが、今後、病院との境目の部分の支援に向けた準備が必要と考えている。職員の習熟度に合わせた研修を行う等、看取りに向けての体制作りに取り組んでいく事を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命講習を全員が受講し定期的に訓練をして急変や事故の場合に備えている		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い消防署や消防団の協力を得て火災の消火訓練も行っています。避難誘導の方法などマニュアルにあけて目の付く所貼っています。地域にも日頃から協力をお願いしている。	年に1回は、消防署と地域の消防団の協力を得て、避難訓練を実施している。その他に、自営防災組織による避難訓練を、昼夜を想定して2ヶ月毎に実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所の確認を行い、利用者が安全に避難出来る体制を整えている。また、非常時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品の準備をしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、それぞれの今までの人生経験等を尊重し、否定しない様心がけています。職員の言葉使いや態度にも気をつけ、お互いに注意しあっている。	職員は、利用者の尊厳と権利を守る介護のあり方を、研修会の中で学び、言葉遣いや対応に注意し、特に、入浴や排泄時の支援は、利用者のプライドや羞恥心に配慮して取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務については、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で上手く意思表示できない利用者に対しも表情や身体の反応を観察し、本人の意志をくみ取っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者の希望や意思を優先し、快適に過ごして頂けるよう心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好み等を大切に髪型や服装等、それぞれの好みに合わせて対応している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りや野菜の皮むき等、個人が出来る事をお願いしています。旬の物を献立に取り入れ職員も一緒にテーブルを囲み食事をしている。	利用者の残存能力を活かして、料理の下拵えや調理の手伝いをお願いしている。利用者の好みを献立に反映し、旬の食材を使用した美味しい食事を提供している。利用者と職員は共にテーブルを囲み、介助の必要な利用者の食事介助を行いながら、話が弾む楽しい食事の時間である。また、外食を取り入れて、気分転換を兼ねた支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量・水分量を記録し把握している。嚥下状態みながら食べやすい様に工夫している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし歯磨きや義歯洗浄を行って、口腔内の清潔を保持するようにしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のリズムに合わせて声掛けし誘導を行っています。訴えない方も時間で誘導している。	居室のトイレで排泄する事を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導で、失敗のないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間はナースコールを押せる方は押してもらってトイレ誘導し、その他の方は、時間を決めてパット交換している。細やかな対応により、紙パンツから布パンツになる等、改善が見られている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛けを行い、食事の献立にも気をつけています。毎日体操を行っている。排便の困難な方は看護師や主治医に相談している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月・水・金と週3回と決めているが利用者の体調や希望に出来るだけ沿うようにしている。夏や失禁後はいつでもシャワーが出来るようにしている。浴槽に入れられない方はシャワー浴を提供している。	入浴は、週3回(月、水、金)の午前中を基本としているが、利用者の希望を出来るだけ優先している。庭の薔薇の花びらや入浴剤を使用する等、入浴を楽しめるよう工夫している。また、利用者とのコミュニケーションを取りながら、入浴拒否の無いように取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前は家でよく休まれていた方、年齢、体力的な問題で昼寝が必要と思われる方は居室でゆっくりと休んでもらっている。昼夜逆転になりそうな方は日中活動してもらえるような働きかけを行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬する目的や副作用・服用時間や量など職員全員が処方箋確認し飲み忘れや誤薬のないように徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味であった川柳を読まれたりパズルや塗り絵などされている。歌は楽しみの一つでよく歌われている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよい日には散歩したり保育園児との交流、地域との交流などしている。月1回程ドライブ外食いかれる。春は花見を園児と行っている	苑の前を通る保育園児の後をついて散歩したり、地域の行事に出かける等、日常的な外出を心掛けている。また、外出レクを企画し、花見や外食、買い物、ドライブ等、普段行けない所にも出かけ、利用者の喜ぶ顔が見られている。中庭に面したウッドデッキに出て外気浴をすることも、利用者の気分転換となっている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニ等へおやつやの買い物に行かれることもある。お財布を常に財布を持ってある方もいる。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族へ電話できる様支援している。携帯電話を持たれている方もおられた。年賀状、暑中見舞いなど家族へ送られる。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、洗面所は居室にあり各自利用せれてる。食堂ではテレビ、音楽を聴かれたりされている。廊下には行事の写真や季節の作品を飾っている。	天井が高く、開放感があり、紅葉の美しい中庭を挟んで両ユニットがある。トマト等の野菜を栽培したり、季節感、生活感を大切に支援に取り組んでいる。リビングは、隅々まで掃除が行き届き、利用者が気持ちよく過ごす事の出来る共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファがあり気の合った方でおしゃべりなどされて過ごされている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し居室にはテレビ、整理タンスなど持ち込まれ居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室にトイレ、洗面台、ベッド、箆笥が備え付けであり、利用者によっては、テレビや仏壇、机や椅子等を持ち込まれ、家族と相談しながら、自分の部屋として愛着が持てるよう整えている。家族の写真や身の回りの大切な物を置いて、利用者が落ち着いて過ごせるよう配慮している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで手すりをつけている。安全に移動できる様にしている。		